

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
			達成状況	評価	考察	評価		
<p>経営理念</p> <p>【学校経営理念】 香南市基本理念の下、本校教職員は教職員間の人間関係を大切にしながら価値観を共有し、組織を効果的に機能させることで生徒の学力を保証する。「個人で考えること」「他者と学ぶ合うこと」をもとに、わくわくさせる授業づくりを追求するなかで、生徒に自覚と責任を持たせ、他者との協働に価値を見出し、多種多様のこの時代の変化を乗り越え、未来を創造する生徒の育成をめざす。</p> <p>【学校経営方針】 生徒に基礎学力を定着させ、学力の向上を図り、いじめや差別のない仲間づくりを実践する。また、授業や部活動を通して体力の向上を図る。 ・教員の授業・学級経営力の向上を図るとともに生徒の学びのスタイルを確立する。・道德教育の充実と自治活動の活性化を図り、人を思いやる心と主体的に課題解決しようとする力を育成する。</p>		学級活動や生徒会活動を通して、自己有用感の育成や人間関係づくりを推進する。学級便りや学校便り、部活動・学級会活動を通して、生徒に肯定的な評価をする。	昨年度から生徒会執行部は生徒総会を企画・運営しているが、内容が十分ではない。また、「生徒会・委員会活動は活発に行われている」の生徒評価が89%、「生徒会・委員会活動に積極的に取り組んでいる」は91%となっているが、「生徒会活動や委員会活動は充実しているか」の教員評価は67%であり、生徒が主体となる活動ができていない。	C	「赤中が実施している生徒会活動の活性化・赤中タイムの実施・保小中高の連携等は、評価できるものだ」の評価は96%である。今年度は学校運営協議会の方々に生徒総会を参観してもらい、生徒たちの様子を感じ取っていた。	B	教員主導ではなく、真に生徒が主体となる活動を生徒自ら企画・立案したり、生徒一人一人に活動の場を与えることで、成功体験と達成感を持たせるようにする。また、周り(地域・小学生)からの感謝や賞賛、各便りを活用した「いいね写真」や肯定的な評価により自己肯定感・自己有用感を継続して育んでいく。	
		生徒一人ひとりに出番を与え、成功体験・満足感・認められ感を持たせ自己有用感を育成する。	今年度はコロナが5類に移行したこともあり、5月当初に全校縦割りによる海岸清掃や例年通り古民家清掃を行うなど、「ボランティア活動に積極的に参加している」の生徒評価が93%であるなどボランティア精神が育まれている。	B	今年度は、どるめ祭りの後の「赤岡海岸清掃」や、冬の夏祭り前の「古民家清掃」など、地域の公立中学校として地域に貢献できていることが評価されていると思われる。	B	ここ数年コロナ禍の影響もあり実施できていない城山高校生徒会との連携による香宗川一斉清掃にも来年度以降取り組めたらと考えている。	
		読書活動の推進(図書館教育の推進を図り、言語環境の整備を進める)	朝読書の更なる充実を図る。図書資料を活用した授業実践を行う。生徒が利用しやすい、図書館の環境整備を行う。小学校への紙芝居の読み聞かせを実施する。	図書委員会は、集会でおすめ図書の紹介や多読賞の表彰を行うなど、読書活動の推進に意欲的に取り組んでいる。「学校図書館を利用した授業や読書活動は楽しい」の生徒評価は82%である。一方、「学校図書館を利用した教育活動を進める」に対する教員評価は50%である。	C	昨年度より、PTAから各学年に学級文庫を贈呈されることとなっている。今後も本に親しむ図書館運営の充実がより期待されている。	B	図書館支援員による新刊図書の紹介や、PTA学級文庫の運営のおかげで学校図書は充実し、また、多くの生徒が図書館を利用している。インフルエンザを懸念し後期の読み聞かせは中止したが、小学校への読み聞かせは好評である。来年度も、図書委員会のさらなる活躍をはじめとし、読書活動をより推進していく。
		道德教育を推進し、「聴く」「語る」ことのできるコミュニケーション力の育成を図る。	道德教育推進教師を中心とした「考え議論する道德」を充実させる。道德の時間が好きな生徒・道德の時間はためになるという生徒を90%以上にする。	「道德の時間はためになる」の生徒評価が84%、「道德の時間では他の意見を聞き自分のことを考えている」は86%、「道德の時間が好き」は66%となっており、昨年度よりどの項目も下降している。「考え議論する道德」を進めているが、行動変容を促す道德展開にとどまっていることが課題である。	C	学校に力を入れてほしいことに「社会のルールや決まり、道德教育・人権教育」が上位となっていることから、道德性や人権意識の高まりは地域の願いとあると思われる。	B	3年生担任が香南市道德教育推進協議会の公開授業を行い事後協議を通して改善点を確認するなど「考え議論する道德」への研究がきている。また、来年度は高知大学森有希先生との校内研修を年3回設定しており、指導力の向上や内容の充実を図っていく。
<p>学力の定着と向上</p>		国語、社会、数学、理科、英語の基礎学力を伸ばし、生徒の学ぶ力を高める。	「わかりやすい授業が多い」の生徒評価は64%と昨年度より20ポイント下降している。また、「わかる楽しい授業を創造して基礎学力の定着を図る」の教員評価も67%と低い。わくわくするよりわかる授業を県のベジックガイドブックに即し実践を進め、基礎学力の向上と定着を図る実践が、以前からの教科担当に浸透していないため、より一層授業改善に向けた取り組みに努める必要がある。	C	「学力定着と豊かな心の育成に努めている」が、R3は78%、R4は89%、R5も89%と、学力向上への新たな取組を理解し、教員の頑張りを評価している。一方、学校に力を入れてほしいことに「わかりやすい授業」が上位になっており、教員の資質・指導力の向上がより期待されている。	B	各教科等における見方・考え方を働かせ「主体的・対話的で深い学び」となるように「切り返し」や「問い返し」をうまく活用する。また、研究主任を中心に授業スタンダード(先生に頼らず自分たちで学ぶ方法)の実践を進めていく。	
		家庭学習の習慣化に努める。	終学活時学習(小テスト)と家庭学習(宿題)のスパイラルを継続し家庭学習の定着を図る。	「毎日家庭で勉強(宿題含む)している」の生徒評価が80%と昨年度より6ポイント下降するとともに、「毎日の家庭学習時間が0分～30分以内」が36%と昨年度より6ポイント増加していることから、家庭学習においても学習に対して真摯に取り組む姿勢を育てる必要がある。	D	「赤中が実施している生徒会活動の活性化・赤中タイムの実施・保小中高の連携等は、評価できるものだ」は96%であり、本校が実施している赤中タイム(加力指導)への評価も高いと思われる。	B	家庭学習の習慣化のため、何のために宿題や自主学習に取り組むのか、それを通してどのような力が付くのか等、家庭学習の目的を明確にして生徒に伝える必要がある。また、主体的な授業参加と家庭学習の習慣化により、基礎学力が定着した生徒を育成する。
		言語活動の充実を推進する。(コミュニケーション力の育成・向上)	「聴くこと」「語ること」「思いを伝えあうこと」のスキルの向上を目指した言語活動の実践を行う。	「授業は友だちの意見や考えを聞き合えるようになっていく」の生徒評価は100%、「自分の意見を周りに人が聞いてくれている」は87%である。一方、「自分の考えや思いを発表できている」は75%と決して低くないが、根拠を明確にして自らの考えを表現できる力を育む必要がある。	B	「子どもたちは目的を持って充実した学校生活を送っている」は93%と過去最高の評価がついている。「みんなで広げ、つながり、生かそう」とする考え方や取組が支持されていると思われる。	A	自分の思いを伝えるためにも、聞くことが基本である。授業等で評価を加えながら、聞くことから思いを伝え合うことへとつなげていく取り組みをする。そのためには、各教科とともに「生徒指導の三機能」による授業展開を通して学級づくりを進め、開かれた人間関係づくり、受け入れてくれる関係をより構築していく。
<p>信頼される学校</p>		保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	「学校からの情報発信に満足」は生徒評価86%、保護者75%と昨年度より下降している。紙媒体およびすぐーによる情報発信は適宜行っているが、URLを活用した保護者向けのアンケートの回収が20家庭であることから、紙媒体以外の情報に一部苦手な保護者がいるとも考えられる。	B	「学校便り等の通信による学校からの情報発信に満足」は、R3が78%、R4が81%、R5は92%と毎年評価が上昇している。	B	学校便りや学級便り、生徒会便り、保健だより等に生徒たちの活動写真を掲載することで、学校の様子を保護者や地域に対して、積極的に情報発信できている。学校便りにQRコードを貼り付け動画を発信している学校も見られるが、いま現在の取り組みを継続するとともに、来年度は、新たなHPを活用し、保護者・地域へも多くの情報を提供していきたい。	
		安心・安全な居心地の良い学級づくりを推進する。	昨年度以上の保護者・地域住民の参加を得られるような参観日等の学校行事の工夫をする。	「学校行事は充実している」に対する保護者評価は80%となっている。生徒は3年間95%前後の肯定的評価を示している。今年度はコロナ明けとなるが、保護者的には、学校行事に十分に参加できていないとの数字であると思われる。	B	学校運営協議会委員の方には、生徒総会をはじめ3年生の入試対策として面接練習、給食の試食にも参加もしていた。一方、市議会議員の方から「コロナ禍以降、あまり協力ができず申し訳ございません。」との意見が見られた。	B	今年度からコロナ以前の生活に近づけることができるようになった。そのため、学校は保護者・地域と協力して課題を解決できるよう、積極的な情報発信とともに、保護者が参加しやすい参観日の設定等、学校行事の工夫を進めていく。
<p>安心・安全な居心地の良い学級づくりを推進する。</p>		定期的な「いじめ」アンケートの実施やi-checkの活用により、生徒にとって安全・安心の学校づくりをする。	「学級が楽しい」の生徒評価が93%と高い。「いじめ」アンケートやi-checkの活用だけではなく、普段から子どもたちの様子の変化にアンテナを張り教員間で共有しているからこそであると思われる。一方、2年生で不登校が新規発生したことから、学級経営や学年の組織体制を見直す必要がある。	C	「先生方の手厚い指導で、生徒さんが楽しそうです。ただ、おたくも悪くも思いますので、人員の配置などご協力いただくと良いと思います。」や「少子化と他校へ編入する子もあって、生徒数は少なくなっており、先生方のご苦労はいかばかりかとお察しいたします。素直な素直な人間に育っていくよう今後も努力していただくことを切に望みます。」とのエールが見られる。	B	学級生活においては、先生と生徒の良好な関係づくりをはじめ、何でも相談できる存在となるために、生徒の目線に立ち寄り寄り添った教育活動の実践を大切にします。	
		全校統一した授業規律の確認と授業実践を行う。	「生徒指導の三機能」を生かした授業・学級づくりを目指す。学級経営について教職員が統一した内容の取り組みを実践する。	「気分屋の先生が3人いてとても気が悪いです。僕も悪い部分がありますけど、いろんな事情があるにも関わらず無駄口叩いてきたり質問に答えてくれないときがあります。」との生徒の自由記述が見られる。担任を中心とした学級活動をはじめ、全教科の授業づくりにおける「生徒指導の三機能」をより意識した授業展開を通して学級づくりを進める必要がある。	C	「子ども目線で今後も努力してください。」や「子どもの気持ちや思いにも耳を傾けて聞いてもらえたらなあと思います。子どもにも理由というものもあると思うので、時には話を聞いてくれるそんな先生で、学校であってほしいです。」との意見も見られる。	C	学校経営理念の「本校教職員は教職員間の人間関係を大切にしながら価値観を共有し、組織を効果的に機能させることで生徒の学力を保証する。」や「個人で考えること」「他者と学ぶ合うこと」をもとに、わくわくさせる授業づくりを追求するなかで、生徒に自覚と責任を持たせ、他者との協働に価値を見出し、多種多様のこの時代の変化を乗り越え、未来を創造する生徒の育成をめざす。」を再確認する。

【評価規準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念		<学校教育目標> 人間力の育成					
経営理念		<生徒像> (1)自主的に学ぶ力の育成 (2)豊かな感性と人間性を育てる心の教育 (3)自己実現の育成 (4)豊かな体の育成					
経営理念		<学校像> 飛び立とう 香我美は夢への滑走路 ～ かがやけ がんばれ みりよくあれ ～					
中期経営目標		短期経営目標(評価項目)					
		自己評価 達成状況					
		学校関係者評価 考察					
		改善策等					
確かな学力の定着	1 授業評価指標(ルーブリック)で、「考える力」「聴く力・伝え合う力」の項目でステップ3.70%以上。	1 授業評価指標(ルーブリック)で、「考える力」「聴く力」「伝え合う力」の項目でステップ3の割合を全学年50%以上。 「考える力」 □物事を整理しながら順序立てて、考えることができる。 □今まで学習したことを活かしながら、いろんな角度から考えることができる。 「聴く力」 □自分の考えと比べながら聴ける。 □自分の考えとの共通点や違いを意識して理解しながら聴ける。 「伝え合う力」 □わからないことは納得いくまで進んで質問できる。 □積極的に自分の考えが言える。	1 授業評価指標(ルーブリック)で、「考える力」「聴く力」「伝え合う力」でステップ3の割合【考える力】ステップ3 ○物事を整理しながら順序立てて、考える 60%【+10%目標値達成】 ○今まで学習したことを活かし、いろんな角度から考える 53%【+3%目標値達成】 【聴く力】ステップ3 ○自分の考えと比べながら 70%【+20%目標値達成】 ○自分の考えとの共通点や違いを意識して理解しながら 48%【目標値比 -2%】 【伝え合う力】ステップ3 ○納得いくまで進んで質問 37%【目標値比 -13%】 ○積極的に自分の考えが言える 49%【目標値比 -1%】	B	1. いろんな角度から考えることについては達成する方法を行っている。  3. 「思考力・判断力・表現力」、この3つは生きていくうえで重要。今の世の中よく言われること。先生方が生徒の様子を見てつけているのでこれでよい。	B	学校教育目標の達成に向けて身に付けさせたい資質・能力について全職員で確認し、そのための、重点目標の「学力」と「発信力」に対する具体的な手立て、その検証方法、チェック機能を確立し、継続の判断、改善策の提案ができる組織体制(チーム会)をさらに充実させていく。  すべての教育活動が学校教育目標につながるように、目的意識の徹底を図る。  学力向上に向けての授業改善については、「教える」から「学ぶ」への授業スタイルに改善、また、ICTのさらなる効果的な活用、授業での学びを家に帰っても主体的に取組めるような家庭学習の見直しと実践。  授業評価指標(ルーブリック)のステップを生徒が達成できるための授業の改善を行うとともに、ルーブリックをノートに貼ったり教室に掲示するなどし、常に生徒が意識して授業に臨めるようにする。
	2 各学力調査において、全教科全国平均を越え、入学時より全国比を5ポイント以上。	2 各学力調査において、全教科全国平均達成。	3 定期テストで、思考力・判断力・表現力を問う記述問題正答率 1年 50.9%【+5.9%目標値達成】 2年 33.6%【目標値比 -11.4%】 3年 37.2%【目標値比 -7.8%】	B			学校生活での土台となる、安心安全な学級経営をめざし、生徒指導の三機能を生かした集団づくりに努める。 生徒と保護者、教員の間に意識の隔たりがある項目に関しては、教員間でデータを共有分析したことを基に具体的な取り組みにつなげていく。
	3 定期テストで、思考力・判断力・表現力を問う記述問題正答率60%以上。	3 定期テストで、思考力・判断力・表現力を問う記述問題正答率45%以上。	4 学校評価アンケート ○「分かりやすい授業」強肯定 生徒 48.6%【+3.6%目標値達成】、保護者 25.3%【目標値比 -19.7%】、 教員 20.0%【目標値比 -25.0%】 (肯定的意見は 生徒 87.1% 保護者 80.7% 教員 100%) ○「意欲的に授業に取り組む」強肯定 生徒 52.4%【+7.4%目標値達成】、保護者 20.5%【目標値比 -24.5%】、 教員 17.6%【目標値比 -27.4%】 (肯定的意見は 生徒 83.8% 保護者 81.9% 教員 94.1%) ・両項目とも、生徒の強肯定の割合は目標値を達成しているが、保護者や教員は達成していない。	B			
	4 学校評価アンケート、「分かりやすい授業」「意欲的に取り組む」で強肯定60%以上。	4 学校評価アンケート、「分かりやすい授業」「意欲的に授業に取り組む」で強肯定45%以上。	4 学校評価アンケート ○「分かりやすい授業」強肯定 生徒 48.6%【+3.6%目標値達成】、保護者 25.3%【目標値比 -19.7%】、 教員 20.0%【目標値比 -25.0%】 (肯定的意見は 生徒 87.1% 保護者 80.7% 教員 100%) ○「意欲的に授業に取り組む」強肯定 生徒 52.4%【+7.4%目標値達成】、保護者 20.5%【目標値比 -24.5%】、 教員 17.6%【目標値比 -27.4%】 (肯定的意見は 生徒 83.8% 保護者 81.9% 教員 94.1%) ・両項目とも、生徒の強肯定の割合は目標値を達成しているが、保護者や教員は達成していない。	B			
豊かな心の育成	1 30日以上欠席数0人、不登校欠席数2%以下。	1 30日以上欠席数0人、不登校欠席数2%以下。	1 2学期終了時点で30日以上欠席生徒数は9名 7.6%。 ・一学期に比べ1名減となったが、目標の0名にはほど遠い人数である。 不登校欠席者数3名 2.5%【目標値比-0.5】	C	1. 不登校については全国の小中学校で30万人。学校に来ることが絶対の選択ではなくて、自分の得意なところを伸ばしていく場所があるかどうかということを考えていくことも必要かもしれない。自分の得意なことを伸ばしていくことは仕事にもつながっていく。今の時代、いろいろな思いを抱えている子がいる。「不登校」というとらえは古い評価かもしれない。  3. 今は本当に本から離れていくのでしょうか。携帯で読んでいるので、本を買わなくなった。  4. 分かりにくい。先生がこのような評価をしているならこれでよい。	C	生徒が安心して登校できるために、安心安全な学級づくり、集団づくりのために、特別活動の時間での話し合いの取組みを中心に、各教科での効果的なペア、グループ学習の取組みを行っていく。  人権、道徳において、子どもに課題意識を持たせる授業展開により、本当の思いやりとなる「さりげなき」に気づかせ実践させる。  全教科による図書館活用については、年度当初の目的確認が不十分であり、冊数が目的にならないよう、「読み取る力」「書く力」をつける手立てにつながるための実践とする。また、ICT活用時間との兼ね合いや、生徒数の減少により年間貸出冊数についても再検討が必要。
	2 道徳調査。「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことを考える」強肯定70%以上「自分にはよいところがある」強肯定60%以上	2 道徳調査 □「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことを考える」強肯定60%以上。 □「自分にはよいところがある」強肯定45%以上。	2 道徳調査 ○「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことを考える」強肯定 47.6%【目標値比 -12.4%】 ○「自分にはよいところがある」強肯定 48.6%【+3.1%目標値達成】	B			
	3 教科の図書館活用、貸出数年2800冊以上。	3 教科の図書館活用、貸出数年2800冊以上。	3 教科の図書館活用、貸出数(2/2現在)年間 1,021冊【目標値比 -1,779冊】 教科の図書館利用に関しては、国語のオリエンテーションや総合的な学習での調べ学習、大空学級の授業を中心に数回活用がみられたが活用回数は伸びなかった。本年度から授業での調べ学習ではタブレット使用の場面が多く、また、休み時間もタブレット使用を解禁したことも、図書館利用の回数減少につながったと考えられる。	C			
	4 i-check「自己認識・学級環境」肯定群90%以上 i-スコア学級の絆3.2以上 要支援群(散布図I Eグループ) 0%。	4 i-check □「自己認識・学級環境」肯定群90%以上。 □i-スコア学級の絆3.2以上。 □要支援群(散布図I Eグループ) 0%。	4 i-check ○「自己認識・学級環境」肯定群 1年 82.9%【目標値比 -7.1%】2年 78.7%【目標値比 -11.3%】 3年 79.4%【目標値比 -10.6%】  ○i-スコア学級の絆 3.4【目標値達成】 ○要支援群(散布図I Eグループ) 0%【目標値達成】	B			
地域を活用した教育の実践	1 総合的な学習の時間アンケート「人の役に立ちたい」「社会や地域の課題を解決したい」肯定群90%以上。	1 総合的な学習の時間アンケート「人の役に立ちたい」「社会や地域の課題を解決したい」肯定群90%以上。	1 総合的な学習の時間アンケート ○「人の役に立ちたい」肯定群 100%【+10%目標値達成】 ○「社会や地域の課題を解決したい」肯定群100%【+10%目標値達成】	A	1. 心に秘めて中間点。まだまだこれから。  2. 以前は子どもが夏祭りに来て手伝ってくれた。昨年夏祭りを久しぶりに行ったが、子どもたちに手伝いをさせるまではできなかった。地域で子どもの声がないと寂しい。交通安全で立っていても、子どもはほとんど親の車で学校へ行くから、道を通らない。	A	本年度は、地域の方を招いた学習が徐々に増えてきている。昨年度から地域コーディネーターの方に協力いただき人材バンク「ひと・もの・こと」を作成。本年度新たに加わった「ひと」もあり、さらに次年度のキャリア教育の計画に活かしていく。
	2 地域の方との協働的な学びを実感する生徒の割合(強肯定)を60%以上。	2 地域の方との協働的な学びを実感する生徒の割合(強肯定)を50%以上。	2 地域の方との協働的な学びを実感する生徒(強肯定) 94.9%【+44.9%目標値達成】	B			防災対策課と連携を取り、各学年ごとに計画した、生徒主体による避難所運営のシミュレーションや、地域貢献のための取組みに、地域の方との交流を取り入れることで、地域のことを考え、人や地域の役に立ちたい、自分にも人の役に立つ活動ができると思える体験的な取組み等も引き続き実践する。
	3 地域への防災等における貢献を通して道徳意識調査における「自分にはよいところがある」の強肯定を60%以上。	3 地域への防災等における貢献を通して道徳意識調査における「自分にはよいところがある」の強肯定を50%以上。	3 地域への防災等における貢献を通して道徳意識調査における「自分にはよいところがある」強肯定 48.6%【目標値比 -1.4%】 ・肯定的意見は全体の84.8%であるが、強肯定は目標に若干達していない。	B			学校からの発信については、学校だより等のお便り及び、「すぐーる」による配信、ホームページによる配信等により定期的に発信していく。
教育活動を通した健康と体力	1 新体力テスト全国平均以上	1 新体力テスト全国平均以上	1 新体力テスト 8種目中 男子7種目、女子2種目、全国比の値を超えている 総合値は男女ともに全国を超えている	B	2. 啓発活動が必要。調理実習はしているのか。→今年からできるようになった。今年はお弁当作りでした。  3. 女子が低い。マラソンでよい成績を出していたが、今後も期待している。	B	次年度も引き続き関係機関との連携及び委員会活動による啓発、部活動、教育活動全般の取組みによる基本的な生活習慣の確立に努める。
	2 朝食摂取率 100%	2 朝食摂取率 100%	2 朝食摂取率 80%【目標値比 -20.0%】	C			校内での休み時間のタブレット利用の開放や、タブレットの持ち帰り学習に対する生徒のICTとの付き合い方については、委員会等を通じて啓発するとともに、利用規定についての再確認をする。
	3 運動が好きと答える強肯定、男子70%以上、女子60%以上。	3 運動が好きと答える強肯定、男子70%以上、女子60%以上。	3 運動が好きと答える強肯定 男子 68.0%【目標値比 -2.0%】、女子 42.0%【目標値比 -18.0%】	C			全国体力・運動能力調査結果から、さらに体力の向上が他教科にも関連していく新たな仕掛けを考え実践していく。
	4 メディア使用時間(2時間以上) 25%未満	4 メディア使用時間(2時間以上) 25%未満	4 メディア使用時間(2時間以上) 51.5%【目標値比 -26.5%】	C			

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	誇れる野市中を、みんなの力で！ ～『分かった！』と言える授業を！『ほっ！』とできる学校を！』めざして～ Level Up More ◎「困難があっても希望を持ち、常に前向きで、明るく取り組む」 ～すべての価値判断は「子どものために」を合言葉に！～ ◎「子どもたちに学びを！ 保護者に安心を！ 教職員にやりがい！」 ～公教育としての責任と地域からの信頼～ ◎「東部地区」の拠点校としての自覚と牽引 ～『力のある学校』をめざして～
------	---

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
豊かな心 命の尊さを重んじ、 自他を大切に 豊かな人間性の育成に 努める。	①基本的生活習慣の定着。 (学校評価アンケート肯定群85%以上) 昨年度【 】	質問項目「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身に付いている」の肯定群は、生徒82.0%【86.4】、保護者69.3%【75.4】で昨年度よりも下がっている。保健通信や掲示物を通してより良い生活リズムの確立に向けて発信を行ってきた。今後は再度、保健委員会を通して生徒が主体となる取組を行っていく必要がある。	B	昨年度より肯定的評価の割合が減少しているが、養護教諭を中心とした取組は評価できる。朝練で早朝に登校するため、朝食を食べない生徒がいるかもしれない。生徒の肯定群と保護者の肯定群の割合にずれがあるので、そこを埋めていくような手立てが必要である。	B	養護教諭を中心とした生徒や保護者に対する啓発の取組は今後も継続していく必要がある。それとともに、保健委員会の生徒から全体に早寝、早起き、朝ごはんの重要性について呼びかけるなどの、生徒を中心とした取組を充実させていくことが求められる。
	②不登校生徒や教室に入れないなどの課題のある生徒への支援を行い、その減少に努める。 【不登校生徒15人以下(全校生徒の3%以下)に減少】	2学期末不登校生徒(20日以上欠席)は、29人【28人】、千人当たりの不登校数は、56.2人【57.5人】であった。本年度もSC、SSWにつないたり、個別の支援会を行い、医療機関や森田村塾、保護者と連携しながら対応してきた。また、不登校担当教員や校内適応指導教室担当教員等の取組により、未然防止、初期対応、自立支援の手立てを行った。今後は生徒主体の授業づくりを推進するとともに、授業中での適切な個別支援を充実させる必要がある。	B	不登校生徒数は増加しているが、千人当たりの不登校生徒数に着目すると、その数が減少している。森田村塾に、多くの先生方が生徒の様子を見に行っていることなど、支援が必要な生徒に対して先生方が非常にこまめに対応していることは大いに評価できる。	A	現在の不登校に対する考え方が、学校に登校するという結果を目標にするのではなく、生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目標にすることに変化している。そこで不登校の人数を達成目標にするのではなく、不登校生徒への自立支援の手立て、新規不登校を生まない未然防止や初期対応の取組についての達成目標に改善していく必要がある。
	③自己肯定感を育む勇気づけや場の設定を積極的に行い、自尊感情を高める。(継続調査 昨年度以上)昨年度【 】	道徳意識調査の自尊感情の質問項目「自分には良いところがある」の肯定群は、83.0%【84.0%】と昨年度並みの値である。自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的な人間関係を育む取組を継続していく必要があると考えている。	A	道徳の時間だけでなく、学校行事や学校生活を通じて生徒の自尊感情を高める手立てができています。今後も継続していく必要がある。	A	二者面談や合唱コンクールや体育祭などの生徒主体の行事運営など、今までの取組を継続、発展させて生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくことが大切である。
	④学級活動や生徒会活動を通して、コミュニケーション力や連帯感とともに、生徒の自治力を育成する。 (学校評価アンケート80%以上 )昨年度【 】	質問項目「問題が起こった時に、みんなで話し合っ解決することができる」の肯定群は84.7%【89.6】、「お互い良い所を認め合うことができる」の肯定群は、87.7%【93.3】という結果で、ともに昨年度より減少している。学級活動の中で、学級の課題解決に向けての話し合い活動を行い、自分たちの学級を自分たちで改善していく活動を充実させるとともに、生徒会活動を通じて生徒の自治力を育成する必要がある。	B	評価項目の割合については昨年度より減少はしているが、合唱コンクールや体育祭などの学校行事では、生徒が主体的に取り組んでいるところが素晴らしい。今後も継続していく取り組みことで、生徒の自治力が向上すると考えられる。	A	保健委員会や美化委員会などの専門委員会も積極的に活動している。学校行事等での生徒会の活動だけでなく、専門委員会での活動も評価項目に入れていく必要がある。
	⑤キャリア教育(進路指導の充実)を推進し、将来の夢や希望をもった生徒を育成する。 (学校評価アンケート80%以上) 昨年度【 】	「目標や夢をもって学校生活を送っている」の質問項目の肯定群は80.4%【84.7】で、若干下がった。本年度より再開した職場体験学習や保育実習等の活動を実施することで、将来に対する見通しや希望を持たせることにつながるよう指導した。今後はキャリアパスポートを効果的に活用することで、夢や希望を持った生徒の育成につなげていきたい。	B	評価項目の割合については昨年度より減少しているが、コロナ禍ではできなかった職場体験や保育実習等の取り組みを再開したことについては一定の評価をすることができる。	B	職場体験や保育実習等の取り組みを継続していくことが大切である。また、キャリアパスポートについてはデータ化していつでも使えるようにするなど、効果的な活用方法を考えていく必要がある。
	⑥人権教育、道徳教育を充実、推進。(道徳意識調査の肯定的評価昨年以上)	道徳意識調査の「道徳の勉強は好きだ」の項目において肯定群は、91.4%【93.1】で高い数値となっている。全校での弁論大会とともに、学級・学年で人権発表を行ったほか、いじめに対する学習や情報モラルに関する学習など複数回実施できた。また、親子講演会(講師:宮田真先生)や生徒会活動でジェンダーについて考える場を設定するなど、生徒がジェンダー等の身近な人権問題を「自分事」として捉えられるよう工夫した。	A	道徳の授業改善や弁論大会、ジェンダーに対する取り組みなど、しっかりと道徳・人権について学習する機会を取ることができている。道徳意識調査の肯定群の割合は高いので、道徳の授業改善についても継続して取り組んで欲しい。	A	道徳科の学習を中心に、人権学習についても継続して取り組むことが大切である。ジェンダーの学習も継続して行い、生徒主体で制服の見直し等の議論も行っていく。
	⑦学校いじめ防止基本方針に乗っ取っていじめの早期発見や日常の生徒理解に努め、適切な情報共有や対応に努めている。 (学校評価アンケート肯定群85%以上) 昨年度【 】	生徒理解に努めるため、校内支援会を年間6回、個別の支援会延べ50回(2学期末現在)行った。質問項目「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」の肯定群は、保護者83.5%【73.0】、教員97.9%【83.3】と昨年度に比べ保護者と教員との間差が広がった。質問項目「学校は、家庭への連絡・情報提供を積極的に行っている」の肯定群は、保護者83.5%【84.5】、教員97.9%【90.0】となった。「すぐる」を活用して学校通信を配付したり、学級担任が積極的に学級通信を発行したりするなど、生徒の様子を伝えようと努力している。	A	生徒や保護者に寄り添った指導や、保護者との関係づくりについてもしっかりと取り組むことができていると感じる。今後も継続していじめの早期発見や生徒理解に努めるとともに、保護者への情報発信を続けて欲しい。	A	校内支援会や個別の支援会を通じて、生徒理解を深めたり保護者の不安を取り除いたりする取組を継続する。授業中や休み時間にも可能な限り生徒のそばで見守り、いじめにつながるような小さな芽を見逃さないようにするとともに、発生した際には組織的な対応で解決を測っていくようにする。

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	学校関係者評価				改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
確かな学力	主体的・協働的な学びの育成～生徒一人一人が「分かる・できる」が実感できる学習活動をめざす～	①校内研修や教科会を活性化し、授業改善に組織的に取り組む。(教員アンケート肯定群90%以上)	授業スタンダードアンケートの質問項目「教科会での取組が授業改善につながっている」の肯定群93.3%、「課題解決に向けて、教科会として対応できている」の肯定群が83.4%である。教科会は週に1回、教科主任会は月1回実施している。授業力向上に向けて講師を招聘した校内研修も行われ、全教員で同じ方向を向いて、授業改善に取り組むことができつつある。今後は教科共通の取組を焦点化することで、教科会をさらに充実させていきたい。	B	教科会や校内研での学びにより、少しずつ授業改善が進んでいると感じている。また、一人一台端末を活用した授業が多くなり、新しい時代に対応した授業づくりができはじめていると感じている。	B	学力向上PDCAサイクルを計画的に回していくことが大切である。年度当初にいつ、何を検証するのかしっかりと年間計画を立てて授業改善に取り組んでいく必要がある。また、主幹教諭と研究主任が連携して具体的な取組を提示し、教科横断的に授業改善していくことが求められる。
		②授業に主体的に取り組むことで「分かった・できた」と達成感をもつ生徒が増えるであろう(研究仮説) <教師の手だての重点> ○自分の考えを説明したり、再構築したりする活動の充実 ○クロームブックの効果的な活用	重点取組に対する教員アンケートの質問項目「ペア・グループ等の学びの時間の後、再び個人で思考する時間が取れている」の肯定群は86.2%、「クロームブックを活用した効果的な学習ができている」の肯定群は69.0%である。教科会、教科主任会を通じて重点取組について定期的に検証を行うシステムを作り、取組の改善を行っている。クロームブックの効果的な活用については、徐々にではあるが、充実しはじめている。	B	アンケート結果を見ると、ペア・グループ後の個人志向をする時間の設定はよくできているが、クロームブックの活用はまだ充実させていく必要がある。	B	学力課題改善や新しい時代に必要な力の育成に向けて、研究主題や具体的な取組をしっかりと設定する必要がある。クロームブックの活用とともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現することが求められる。
		③組織的に授業規律の定着を図る。特にきく態度や規範意識を育成する。	「聴くコンテスト」を年間2回実施している。学習委員会などで話を聞くことが大切かを話し合い発信できた。チャイム着席についても、教員だけでなく教科リーダーが呼びかけることでチャイム1分前着席が定着してきており、落ち着いて授業をスタートできるようになっている。年度途中に授業規律について教員間で意思統一を図り、生徒と教員が協力して授業規律の定着を図っている。	A	教科リーダーが中心となり、1分前着席が良くできている。1分前着席や聞くことに力を入れているので、生徒が落ち着いて授業に向かうことができている。生徒と教員が協力して授業規律徹底することができている。	A	小中連携の取り組みをさらに充実させ、チャイム着席や聞くことの充実に引き続き取り組むとともに、生徒と教員が協力していくことを継続していくと良い。
		④家庭学習の習慣化に努め、予習・復習の質と量を高める。(家庭学習1時間以上70%以上)	○平日の家庭学習の時間1時間以上(2学期調査65.0%) ○休日の家庭学習の時間1時間以上(2学期調査66.3%) 家庭学習の質と量の充実については、学力向上に向けた課題となっている。プロジェクトチームをつくり、家庭学習の新たな仕組みづくりや学習委員会の活動の充実を図ることで、家庭学習の質と量を充実させていきたい。	C	塾の時間は含まれていないので、塾の時間を入れるともう少し長くなると思うが、家庭学習の時間の少なさは大きな課題であると考えられる。学力定着に向けて、工夫した取組が求められる。	C	家庭学習の新たな仕組みづくりや生徒主体の活動の充実を図る必要がある。アンケート調査は、塾で勉強する時間も含めて聞くようにすると、学校以外での勉強時間が分かると考える。
		⑤複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援を行う。(学校評価アンケート80%以上) 昨年度【 】	授業理解に関わる質問項目の肯定群は、生徒85.1%【90.1】保護者45.7%【66.0】教員65.5%【70.2】であった。生徒、保護者、教員で、ばらつきがある。加配教員や学習支援員による個に応じた支援を充実させる必要がある。	A	加配教員や学習支援員が配慮が必要な生徒に個別に声をかけたり、デジタルドリルを活用するなど、個に応じた支援は充実していると考えられる。	A	TTや少人数学習を継続するとともに、授業の中で個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることによって、個々の興味関心に則した学びを提供する必要がある。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	①予防的な視点での生徒指導に努め、落ち着いた学校を維持する。(暴力行為の発生件数10件以下)昨年度【 】	2学期末の生徒間暴力の発生件数は0件【0件】である。落ち着いた学校を維持することができている。	A	生徒間暴力は0を継続している。これまでの取組の成果と考えられる。	A	発達支持的生徒指導を基盤とし、課題の未然防止教育を充実させるとともに、生徒の自己指導能力を育成していく。
		②地域学校協働本部を立ち上げ、具体的な活動に取り組む。	放課後学習支援は、1月末現在13名(1年4名、2年5名、3年4名)の参加者で計画通り実施している。支援員の先生方が丁寧に指導してくれている。12月学校周辺環境整備を人権擁護委員と連携して実施することができた。また、卒業式前に花壇整備等計画している。	B	放課後学習支援や環境整備など、取組が定着してきている。今後も地域と学校が互いにメリットが有るような活動に発展させてほしい。	B	地域人材を掘り起こしたり、地域の活動に参加する場年を作ったりして、地域学校協働本部の活動を充実させていく。防災学習を地域人材とともに行うことができると良い。
		③保護者や地域へ学校の情報を積極的に発信する。(学校評価アンケート80%以上) 昨年度【 】	「学校が保護者や地域へ情報提供をしている」についての質問項目の肯定群は保護者81.1%【83.5】、教員97.9%【97.9】となり、目標値は達成した。「すぐー」を活用して学校通信を周知したり、学級担任が積極的に学級通信を発行するなど、生徒の様子を伝えようと努力している。	A	学級通信や学校通信をこまめに発行している。学校の取組を保護者、地域に伝えていくことが信頼関係を構築することにつながる。	A	「すぐー」を利用して、保護者に向けて学校からの情報発信をさらに進めていくとともに、学校ホームページ等を活用して地域に対しても情報発信を行っていく。
		④学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。(学校評価アンケート「意見を聞いてその声を生かしている」70%以上) 昨年度【 】	1月に学校評価を実施する。評議委員の評価とご意見を次年度にいかしていく。「保護者や地域の声を活かしている」の質問項目について保護者83.5%【73.0】、教員96.6%【83.3】と、昨年度に比べそれぞれ評価が上がっている。	B	アンケートの肯定的な回答の割合が増加している。学校運営の改善に努めていると評価することができる。	A	生徒や保護者、地域の声を学校運営に反映できるよう、学校評価アンケートの項目を見直したり、回答内容から取組を見直したりしていく。
		⑤安心・安全な学校づくりを進める。	学校安全計画を踏まえ、教職員と共有を図りながら、危機管理に努めてきた。自転車の乗り方については、地域の方から注意を受けるなど課題となっている。避難訓練や救急救命講習については予定通り行い、教科の学習を通じて、防災についても学習している。	B	避難訓練や防災学習など、学校安全計画を踏まえ、危機管理に努めていることは評価できる。自転車でスピードを出しすぎたり、ヘルメットをかぶってなかったりする場面が見られるのが心配である。	B	自転車の乗り方については、交通安全教室を実施したり、地域や保護者と連携したりして、継続的に指導を行っていく。総合的な学習の時間に地域の人と防災学習に取り組むなど、さらに安全教育の充実を図っていく。

評価基準 A:十分満足 (80%以上) B:おおむね満足 (80%～60%)  
C:もう少し努力すべき(60%～40%) D:大いに努力が必要 (40%以下)

経営理念		<p>【教育目標】 人権を尊重し、郷土を愛し、自主的で社会性豊かな生徒を育成する ～ やり抜く力の育成 ～</p> <p>【経営目標】 全ての生徒が他者との良好な関係性と貢献できる自分の姿を明確にし、進路実現の学力を身につけ、将来における自己実現の基礎的能力を養う。                  &lt;めざす生徒像&gt; ・自分の存在を大切にしている生徒 ・支え合い認め合う生徒 ・気力に満ちた生徒                  &lt;めざす学校&gt; ・生徒がいそいそと活動している学校 ・生きる力を育成する学校 ・地域に貢献できる学校                  &lt;めざす教職員像&gt; ・教育に対する熱意と使命感を持つ教職員 ・子どもを信頼し、可能性を伸ばすことができる教職員 ・責任感や協調性を持ち、互いに高め合う教職員</p>				
中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(R5)		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
知	・各学力調査において県平均-3ポイント以内 ・学力向上実感の否定群を20%以下にする ・研究授業や公開授業において生徒指導の三機能を活かした授業の視点を協議に入れる	・3年全国学力調査(4月) 全国平均 -1ポイント ・1,2年県学力調査(12月) 県平均1年 -1.4ポイント 2年 -3.5ポイント ・学力向上実感 否定群 18.5% ・研究授業において、生徒指導の三機能を視野にいれて授業を行い、参観シートに特に力をいれている視点について参加者にみてもらうようにした。	B	学年差はあるが一定達成されている。	B	・授業の中で理由や根拠を明確にした言語活動を行う。 ・文法や公式(解き方)など基礎的な力が定着していない生徒がいるため、授業の中で、生活に関わるような問いかけや必然性、目的を持たせるような働きかけを授業の中でしていく必要がある。 ・研究授業の協議の中で、生徒指導の三機能を活かした授業についての視点を入れ日々の授業につなげていく。
	・研究授業や公開授業において生徒指導の三機能を活かした授業の視点で評価しあえる ・単元ごとの観点別評価規準について生徒が納得できるように示している	・「家庭学習の手引き」を生徒、保護者にお知らせし意識付けをした。 ・良い自主ノートを紹介し校内に掲示した。 ・自主ノートコンテストを実施した。 <昨年度の比較> 2学期平日学習時間 全校55分 -5分 2学期テスト期間中 全校113分 +4分 ・話し合い活動「日々の家庭学習時間を増やす方法を考えよう。」を各学年で実施し、自分事として考えることができた。	B	学習時間に学年差がある。しかし、生徒会活動を軸に主体的に取り組むための手立ても出来ている。	B	・家庭学習の習慣化を図る手立てを仕組んでいく必要がある。 ・今後も話し合い活動を通して、家庭学習にどう取り組んでいくのかについて自分たちで考える機会を持つ。 ・委員会活動を通して自主学習コンテストをさらに充実したものにしていく。 ・家庭学習時間の目標設定の見直しをしていく。
	・単元ごとの観点別の評価規準について生徒が納得できる内容の研究を習慣化する	・各教科で単元ごとのめあてを設定し生徒と共有しながら、ゴールに向かって毎時間の授業を組み立てていくことができた。 ・単元ごとの評価規準を設定しながら、少しずつ研究を始めている。	B	定着は出来ていないが、研究の重要性は共有できている。	B	・今年行った指導を振り返り、効果があった内容や改善点などを見直し、来年度へつなげていく。
徳	・暴力行為0	暴力行為0 ・学校全体が穏やかで、学年関係なく生徒同士も仲がよい。支え合い認め合える雰囲気がある。	A	良好な状態であると判断できる。	A	・来年度も生徒同士が支え合い認め合えるように人権教育や道徳教育、学級づくりを力を入れていく。
	・不登校0	不登校3 ・昨年度からの継続生徒2、新規1である。友達関係や進路などに不安を感じる生徒もいるので誰もが安心して学級づくりを行う必要がある。 ・関係諸機関や家庭との連携ができており、生徒同士での関わりの機会をつくることはできた。	B	不登校0にはなっていないが、連携や手立ては出来ている。	B	・友達との関わりの機会を大切にしながら登校を促し、また誰もが安心して過ごせる学級づくりを継続して行う。また関係諸機関や家庭との連携ができているので、継続して行っていく。
	・暴力行為0 ・不登校0を3年間継続 ・「自分には良いところがある」否定群0% ・「道徳の勉強は好き」否定群0%	否定的評価13.7% ・「自分には良いところがある」否定的意見0% ・1学期よりも2学期になり、否定的評価の割合が減少傾向である。生徒同士の認め合いや教師からの肯定的評価の取り組みを意識して行ってきた成果が表れてきている。	B	否定的評価は減少傾向にあるので一定評価できる。	B	・来年度は生徒会を中心とした生徒主体の取り組みを行い、地域に出ていく活動を通して、外部や地域の方からも評価していただく機会をつくっていく。
	・「道徳の勉強は好き」否定的意見0% ・「道徳の時間・・・良く考えている」否定的意見0%	・「道徳の勉強は好き」否定的意見31.3% ・「道徳の時間・・・良く考えている」否定的意見21.6% ・今年度、道徳の指導案づくりや公開授業を行い、生徒指導の視点を取り入れた授業について研修したり、指導の工夫も各学年で行ってきた。しかし、発言する生徒が決まっていたり、取り上げる教材の内容が生活の課題と合っておらず興味を持たせた授業づくりができていないことが考えられる。また、発問がわかりきったことを聞くようなものになっており、生徒にとっては面白さを感じられる授業展開になっていないことも考えられる。	C	取り組んではいるが、目標値とのひらきが大きいので研究・研修の充実を求める。	C	・今後も道徳の授業づくりの研修を行い、発問の仕方や指導方法について指導書にとらわれない指導法について学習するようにする。また教材についても生徒の身近な話題を取り上げたりしながら、道徳の授業を楽しみ、面白いと思える生徒を増やしたい。

中期経営目標	短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(R3)		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
体	・朝食摂取率、毎日食べている。食べる日が多い85%	・10月に実施した「生活調査」により、朝食を「毎日食べている、食べる日が多い」と回答した生徒は83.6%である。食べている生徒がほとんどであるが、一部の生徒については食べないことが習慣になっている生徒もいて懸念される。	B	調査をきっかけとして、啓発のための手立てを充実させることを求める。	B	・生活調査を継続的に実施し動向を見とるとともに、朝食の大切さや体調との関連性について啓発していく。また、欠食生徒については固定化されている傾向があるため、その家庭に向けて面談等の機会を生かして働きかけていく。	
	・総合判定D 男子20% 女子25% ・体力テスト2回目を実施	・男女の体力面においては、結果として、男子21%、女子16%となり、目標に近づいたり、目標をおおきく超えたりと、良い結果が出ている。 ・体力テスト2回目は、高知県が調査をしている中学2年生のみを対象として行った。 ・近年体力が低い傾向。とくに女子が運動していない様子がある。	B	一定の成果が見られる。今後も工夫を期待する。	B	・体力テストの結果のうち、県の結果と比べて著しく下回っている種目については、ウォーミングアップの中で強化していくようにする。 ・体育の授業以外にも、運動を意識的にできる方策はないか。(何気なく運動できる環境を整えるなど。) ・体の部分については、「健康」について中心的に取り組を行った。「体」についても一緒に取り組むことが大切である。	
	・朝食摂取率、毎日食べている。食べる日が多い90%以上 ・総合判定D 男子10%以下 女子15%以下 ・体育の授業は楽しくない 男女0%	・項目「体育の授業は楽しくない」の結果は、男女ともに「0%」であり、よい結果となった。	A	取組の結果を評価できる。	A	・アンケートを取ったすべての生徒に否定的な回答「体育の授業は楽しくない」との回答はなかった。今後も工夫を重ねながらこの状態を持続していきたい。	
	・「ぐっすり眠ることができる」30%	・10月に実施した「心の健康調査」において、「ぐっすり眠ることができる」と回答した生徒は、50%であった。6月の同調査では、44.3%という結果であり、やや改善がみられるが、高い数値とはいえない。	B	学校で取り組めることは少なく、学校評価の項目には適していないと思われる。	B	・睡眠とメディアとの関連性が示唆され、メディア使用のルール作りの取組を行うことと、また、日中の運動量との関連性も考えられるため、体力向上の取組も必要である。不安傾向の高い生徒もいるため、心のケアも同時に行っていく。	
横断	・年間3回以上の防災訓練が定着し、生徒は適切な避難行動ができています ・2次避難を想定した引き渡し場所を保護者と共有する ・保護者と生徒の間で休日や夜間の避難後に合流する場所を決めている	・避難場所への保・幼・小・中の合同避難訓練が雨天のため実施できないこともあったが、雨天を想定した避難訓練を検討することができた。 ・PTA役員会で引き渡し訓練について協議し、講師を招いての研修を予定している。 ・保護者への引き渡しに向けて、実施できるか、実現性を検討しているが、課題が多く実施はできていない。 ・引き渡しカードの確認ができた。小中は統一 ・避難訓練の工夫、発生時間の想定を通知しない訓練が実施できた。(誰がどの立場になっても対応できるよう具体的な想定を設定しない状況で実施して最善の対応がとれるか。)(職員会提案)	B	どこまでやってもA評価にならない項目かもしれないが、取り組みの充実を期待する。	B	・保育・幼稚園は高台に移転したため、今までの形式では実施できない。今後は小中合同避難訓練としての実施となる。 ・3段階での避難場所の確認 2次的避難の訓練を追加(野球場)まで歩くことも訓練の中に入れていく。遠足とのリンクも考える。 ・引き渡しが実施できるか。現実を考えると、中学生を引き渡し想定が必要か検討する。 ・模擬訓練のようなもので実施するか。避難経路の変更が条件に入っているのもよかった。	
	・2次避難を想定した引き渡し訓練ができています ・保護者と生徒の間で休日や夜間の避難後に合流する場所を決めている	・時間外が月45時間を超えない	・一部職員については、45時間を超える月もあるが、年間の平均値として超える状況ではない。	A	評価できるが、個人差がなくなるような取り組みも必要ではある。	A	学校行事等によりシーズンのいそがしい時期があるが、複数協力体制で業務を分担し、勤務時間を偏りを無くす。
	・時間外が月45時間を超えない ・県指定事業「社会に開かれた生徒指導実践研究事業」が効果的に行われ教員の実践力と生徒の意識改革が進む ・保幼小中連携の効果を実感できている ・安全かつ効果的に生徒が自分の意志でタブレットを活用している	・県指定事業「社会に開かれた生徒指導実践研究事業」が効果的に行われ教員の実践力と生徒の意識改革が進む ・学級会の流れについては小学校に学びながら、小中統一できるようになってきた。 ・学級会を実施するための準備の時間の確保が課題(いつ、どのくらいの時間、全学年統一)	・学級会の流れについては小学校に学びながら、小中統一できるようになってきた。 ・学級会を実施するための準備の時間の確保が課題(いつ、どのくらいの時間、全学年統一)	B	2年目に向けて、研究成果を子どもたちの姿で示せるように取組に期待する。	B	・効果的に行われてきたというより、学級会について生徒とともに教員が学びながらつくりあげた1年だった。 ・2年目は、生徒主体で教員に広い視野で見守れる状態にできるよう、事前確認、事前準備を心がけていく。
	・安全かつ効果的に生徒が自分の意志でタブレットを活用している	・保幼小中連携の積極的な改善	・今年度は年4回、保幼小中合同研修会を実施することができた。(年3回の合同職員会と防災研修会1回) ・夜須校区で目指す子ども像の育成を意識しながら各部会で話し合いをし、異校種での交流を見直し取組を行うことができた。	B	より充実した連携となるように取組に期待する。	B	・今後も効果的な交流になるように、検証を行いながら目的を持った取組になるようにしていく。
・安全かつ効果的に生徒が自分の意志でタブレットを活用している	・安全かつ効果的に生徒が自分の意志でタブレットを活用している	・授業の中においては、生徒はタブレットをおおむね効果的に活用することができている。しかし、休み時間や始業前、放課後などの時間帯に生徒が自分の意志で、自由にタブレットを活用できる状況にすることはできていない。	C	日常化に向けて実践を期待する。	C	・生徒が自由に保管庫からタブレットを取り出し、利用できるようにすることが必要である。それに伴い、タブレットの使い方に関するルールの見直し、破損・汚損時における責任の所在の確認、周知が必要である。	

評価基準 A:十分満足 ( ~80% ) B:おおむね満足 ( 80%~60% )  
C:もう少し努力すべ ( 60%~40% ) D:大いに努力が必要 ( 40%~ )